

職場の方へ

肺動脈性肺高血圧症(PAH)について

このシートは、PAH(Pulmonary Arterial Hypertension)患者さんがPAHという病気や症状、日常業務への影響について共有するための資料です。PAHは、患者さんの体力や日常生活に影響を及ぼすことがあり、日常業務においても配慮が必要となります。患者さんが無理なく働き続けられるよう、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

〈監修〉久留米大学医学部 内科学講座 心臓・血管内科部門 主任教授 福本 義弘先生

PAHとは？

- ・ PAHは、発症頻度が100万人に1~2人の稀な病気です¹⁾。
- ・ 肺の細い血管が異常に狭くなり、血液が流れにくくなることで、心臓から肺に血液を送る「肺動脈」にかかる圧(肺動脈圧)が高くなる病気です。
- ・ 肺動脈圧が高くなると心臓への負担が増えるため、息切れなどの症状があらわれます。
- ・ 進行すると心臓に負担がかかり、心臓の機能が低下する心不全に至ります。
- ・ 完治が難しい進行性の病気で、継続的な治療や定期的な検査が必要です。
- ・ 治療により病気の進行を防ぎますが、激しい運動や疲労、インフルエンザなどの感染症により症状が悪化することがあるので注意が必要です。



主な症状

- ・ 息切れ
- ・ 疲れやすい
- ・ むくみ
- ・ めまい
- ・ 胸の痛み
- ・ 動悸
- ・ 立ちくらみ など

日常生活への影響例

- ・ 清掃作業などの軽作業で息が切れる
- ・ 階段を上るときや重い荷物を持ったときに途中で休憩が必要になる
- ・ 短い距離の歩行でも途中で休憩が必要になるなど

1)厚生労働省:指定難病の概要、診断基準等 86 肺動脈性肺高血圧症
<https://www.mhlw.go.jp/content/10905000/001173505.pdf> (2025年7月閲覧)

サポートに関するご相談事項(相談したい事項に患者さんご自身が✓を付けてください)

通勤	☐ 自家用車による通勤 ☐ 時差出勤 ☐ その他()
勤務形態	☐ 勤務時間の変更(1日 時間 : ~ :) ☐ 交代勤務 ☐ 在宅勤務 ☐ 夜勤の免除 ☐ 残業の制限 ☐ 内勤業務への異動
休暇等	☐ 通院・入院等のための遅出、早退、休暇 頻度 月 回 ※病状・治療により、通院頻度は変更になることがあります
環境面	☐ 空調管理がされている席または部屋への変更 ☐ 出入口に近い席への変更 ☐ エレベーターが利用できるフロアへの変更(2階以上の場合) ☐ その他()

緊急連絡先

名前	続柄	自宅電話番号	携帯電話番号
通院先(医院名・診療科)	主治医	電話番号	

肺高血圧症コンパス

PAHに関するより詳細な情報をご紹介します。
<https://ph-compass.jp/pah/>

